

グラウンドゴルフで親ぼく

大崎地区グラウンドゴルフ大会

大崎小学校区にある小船、川内、大崎上、西木場地区が主催する第15回大崎地区ふれあいグラウンドゴルフ大会が9月26日、大崎地区グラウンドで開催されました。

大会は、地域内の世代間交流を深めることを目的に、毎年開催。この日は、住民など約250人が参加し、コース外から応援したり、子どもに打ち方を教えたりして交流を深めました。結果は次の通りです。

①小船 ②大崎上 ③川内 ④西木場 ⑤小学校



自分の考えを力強く主張

鷹島少年の主張大会

第14回鷹島町少年の主張大会(鷹島町青少年健全育成会など主催)が9月27日、鷹島開発総合センターで開催されました。

同大会は、意見発表を通して、青少年の意識に対する市民の理解を深め、子どもたちの健全育成を図ることを目的に毎年開催されています。

この日は、小・中学生、保護者、地域の人など多くの来場者が見守る中、小学生4人、中学生4人が日ごろ考えていることや夢などをテーマに発表。審査の結果、「私らしくあるために」というテーマで発表した椎山愛菜さん(鷹島中3年)が最優秀賞に、吉住姫乃さん(鷹島小5年)が優秀賞に選ばれました。



いつまでも安全運転で

高齢運転者体験型講習会

高齢運転者体験型講習会が9月23日、ヒューマンスクール松浦で開催されました。

この講習会は、高齢者の交通事故が年々増加し、事故状況も多様化していることから、実践的な体験を通して運転講習会を行い、高齢者の交通事故防止の徹底を図ることを目的に毎年開催されています。

この日は、60歳以上の普通運転免許取得者19人が参加。教習コースを利用して運転の実習をしたり、機械を使って反応時間や動体視力の検査を受けたりしました。



周囲に支えられて

県母子寡婦福祉研究大会

県母子寡婦福祉研究大会(県母子寡婦福祉連合会、市母子寡婦福祉会主催)が9月26日、文化会館で開催されました。

同大会は、母子と寡婦が協力し助け合い、自立を図ることと、会組織の更なる発展と頼れるやさしい会を育てることなどを目的に、「母子と寡婦 共に手を取り輝く未来へ」をスローガンに掲げ開催されたものです。

会には市民など約550人が参加。オペラ歌手松尾俊哉氏による「思い立ったが吉日」と題した講演や歓迎アトラクション、体験発表などが行われました。



家族と一緒に 100 歳を祝う

武永ヨシさんが 100 歳

武永ヨシさんが 10 月 1 日、入所中の特別養護老人ホーム愛光園で 100 歳の誕生日を迎えました。

武永さんは明治 43 年生まれで、若いころは農業に従事。デイサービス、ショートステイなどを利用し、平成 18 年 4 月から同施設に入所しています。

現在は、足が不自由で施設内の移動は車椅子ですが

特に病気もなく、テレビを見たり、他の入所者と一緒にお茶を飲んだりして過ごしています。

この日は、同施設で武永さんの 100 歳祝いが行われ、長男家族などに囲まれる中、友広市長から花束などを受け取りました。



小中学生が剣道で熱戦

西九州剣道大会

第 15 回西九州親善少年剣道松浦大会が 10 月 3 日、文化会館で開催されました。

同実行委員会が、剣道の振興、青少年の心身の鍛錬と親ぶくをを図ることを目的に、毎年開催しています。

今大会には、県内や佐賀県の 10 市 3 郡 80 チームが参加。小学生、中学男子、中学女子の部に分かれ、団体戦で白熱した戦いを繰り広げました。各部の優勝チームは次の通りです。

【小学生の部】 臥龍徳心館（鹿島）

【中学男子の部】 国見中学校（伊万里）

【中学女子の部】 武雄中学校（武雄）



病気の正しい知識を身につけて

市民公開講座「動脈の詰まる病気」

長崎労災病院勤労者脳卒中センター主催の市民公開講座（北松浦医師会後援）が 10 月 3 日、文化会館で行われました。

「動脈の詰まる病気」をテーマに長崎労災病院横山博明院長を座長とする医師 5 人が、脳や心臓などそれぞれ専門の立場から動脈の詰まる病気の種類や治療法などを説明。生活習慣から病気を予防する重要性を訴えました。

この日集まった市民など約 130 人は、メモを取るなどして真剣に聞き入り、説明後の質疑応答では、治療法に関するさらに深い説明を求めるなど、動脈の詰まる病気への理解を深めていました。



星鹿地区の方言集を自費出版

山口恭右さん

星鹿町の山口恭右さん（星鹿、76）が、星鹿地区の方言を「星鹿方言集」として 1 冊の本にまとめ、50 冊を自費出版しました。

この本は、約千語におよぶ星鹿地区方言をはじめ行事の由来や同地区に伝わる民話などが 191 ページにまとめてあります。

星鹿の方言を使うことによって醸し出される和やかな雰囲気と、その響きに魅了された山口さんは「時代の変化とともに使われなくなっていく方言を残しておきたい」と 3 年前から調べ始めました。方言を使うことは地域を愛し、誇りを持っていることの証しです。ここに紹介する星鹿方言の一つ一つに触れ、ふるさとへの思いを再認識していただけたらうれしいです」と話していました。

